

地域のお客さまに評価され、 喜んでいただける商品、 そしてサービスを 提供してまいります。

仙台商工会議所常議員・3号議員
株式会社仙台銀行 代表取締役頭取
株式会社じもとホールディングス
代表取締役会長

すずき たかし
鈴木 隆氏

プロフィール

昭和29年1月20日生まれ。仙台市出身。血液型O型
昭和52年成蹊大学文学部を卒業後、(株)振興相互銀行(現仙台銀行)に入行。
平成15年取締役、19年常務取締役を経て、24年10月(株)じもとホールディングス取締役に就任。25年6月より現職。中学から大学までバスケットボール部だったことから、いまでも「これぞ」という試合は必ず観戦するという。そんな鈴木氏の好きな言葉は、関東の某大学ラグビー部の中で語り継がれている「花となるより、根となろう」。「緑の下の力持ちとして、地域社会を支える存在でありたいと思います」と語る。



震災を経験する中で 強まった両行の絆

—平成24年10月1日、貴行と山形のきらやか銀行が共同持株会社じもとホールディングスを設立、経営統合されましたが、それまでの経緯を教えてください。

経営統合を発表したのが平成22年の10月で、予定では翌23年10月に経営統合をスタートするつもりでした。しかし、東日本大震災によって1年延期になったわけですが、これによって、きらやか銀行と当行の絆をより強めることができたということをまず申し上げたいと思います。

震災によって私どもが相当の被害を受けたということもありますが、きらやか銀行から物心両面にわたる支援を受け、支えられました。また両行のトップが、地域社会の復興と発展に寄与するというさらに強くなった意志と絆をもって経営統合に至ることができたと思っています。そして現在、25年度第3四半期の決算をみましても、ホールディングスが48億円、当行が27億円の純利益となっており、計数的にも順調に経営統合は推移している状況です。

—経営統合によって、どのような成果が得られたとお考えですか。

目に見える成果としては、宮城・山形のビジネスマッチングや協調融資の実行などが挙げられますが、実は目に

は見えない部分での成果が非常に大きいと実感しています。例えば、両行の行員が切磋琢磨し合うことで意識の向上がみられたこと。お互いの良いところを生かすことで、行内の会議や業務の推進、資料のつくり方に至るまで質を上げながら効率化を実現しています。一年以上をかけて、あらゆる部署でお互いのやり方を比較して違いを知る、違いを知ったうえで統一する、あるいは創造するということを続けてまいりました。その中で非常に良いものが生まれています。

震災復興支援の軸は 独自の「本業支援」

—じもとホールディングスが掲げている「震災復興支援戦略」とは、どのような内容なのですか。

じもとグループでは、人材育成や組織づくりを計画的に進めながら、宮城と山形の「人・情報・産業」をつなぎ、中小企業のお客さまへの「本業支援」を中長期的に展開し、地域経済の復興と発展に貢献することを標榜しています。その実現のために実践しているのが、「じもとを元気にする4つの戦略」です。ひとつ目が両行の能力を結集して地域経済の復興・発展に積極的に貢献する「じもと復興戦略」、2つ目が両行の情報をつなぎ、産業再生と活性化に貢献する「じもと経済活性化



移動店舗「どこでも窓口」のトラック。
沿岸部はもちろん広く被災地域を巡回している。

化戦略」。そして3つ目がお客さまに喜ばれる共同商品を開発したり、最適なサービスを提供する「商品・サービス向上戦略」、4つ目が徹底した経営効率化と経営資源の効果的配分で経営を強化する「経営資源の効率的配分戦略」です。

この中で、当行が最も力を注いでいるのが「じもと復興戦略」です。実は震災発生から3カ月後の6月、震災復興の専門部署として、いち早く「地元企業応援部」を新設しました。発足当時は40人、現在は60人体制で佐沼、古川、石巻、仙台、岩沼の5カ所に拠点を設けて、各地の復興活動に当たり、徹底してお客様の復興を後押ししています。

また、移動店舗「どこでも窓口」という事業を24年の5月から展開しています。銀行における窓口・ATMサー

ビスが提供できるように改造したトラックで、被災地を巡回しています。復興融資の具体的な数値を申し上げますと、23年3月から26年の1月まで、被災者さま向け融資として3821件のお客様に974億円のご融資をしております。

「人・情報・産業」の橋渡し役として

ー日本海と太平洋をつなぐ、金融機関として県境を越えての広域経済の発展に、今後、どのように貢献していくとお考えですか。

私どもは宮城と山形の「人・情報・産業」をつなぐことをめざしており、そのためにお客様の事業成長を目指す「本業支援」の活動に力を入れていきます。まず両行の各営業店で渉外行員がお客さまの所にかがいがい、ご要望や課題を聞き取る活動を行っています。聴取した内容をパソコンに入力し、その情報を両行の本部で集約、分析します。その資料をもとに、ビジネスマッチングや課題の解決、販路開拓、商流の提供に活用しているのです。このように両行が非常に密にネットワークを組み、蓄積されたデータをもとにした本業支援を行っている銀行は、私どもじもとグループのみと自負しております。お客さまのご商売が繁盛することで、お客さまと私どもの関係が深まります

し、ひいては地域社会の発展にもつながっていきます。このような正の循環を構築したいというのが私どもの思いであり、じもとグループの考え方は宮城と山形を「人・情報・産業」でつなぐ試みはまだ始まったばかりです。これをさらに良い形にしていかなければならないと肝に銘じています。そして、じもとグループが最良の金融グループとして、お客さまから評価されることをめざしてまいりたいと思います。

【概要】
株式会社 仙台銀行 (平成25年9月末現在)

設立：昭和26年5月25日
 代表者：取締役頭取 鈴木 隆
 資本金：224億85百万円
 従業員数：728名（嘱託及び臨時従業員を除く）
 店舗数：72カ店（本支店67カ店、5出張所）
 本店所在地：仙台市青葉区一番町二丁目1番1号
 TEL.022(225)8241(代表)
 ホームページ：http://www.sendaibank.co.jp



仙台銀行
www.sendaibank.co.jp



じもと
HOLDINGS

森

『森』は生きています。人間と共に。

二酸化炭素を酸素に。人間にとって欠かせない酸素を、人間が吐き出した二酸化炭素から作り出す植物たち。この自然のサイクルを、一本の木を、そして森全体を、見守っていかなくては……。そう私たちは考えています。私たちは青葉環境保全です。

——より良い環境をめざす——

AOBA 青葉環境保全

本社／仙台市若林区蒲町19-1 電話(022)286-3161(代)